論文の内容の要旨

論文題名
昭和大学病院における悪性呼吸器疾患と非悪性呼吸器疾患の終末期医療の実態調査

掲載雑誌名
昭和学士会雑誌　2023 年　掲載予定

医学研究科医学専攻(呼吸器アレルギー内科学分野）博士課程　金子佳右

内容要旨
【背景・目的】
呼吸器疾患においては悪性・非悪性を問わず，苦痛に対する緩和ケアはきわめて重要である．既報では呼吸器領域の悪性疾患群と非悪性疾患群の 2 群間で終末期に施行した治療・ケア内容を比較した調査データは乏しく，その実態を調査することで，互いに不足している治療・ケアを抽出し，各群の問題点を明らかにすることを目的とした.
【方法】
昭和大学病院呼吸器内科に入院した患者のうち，悪性疾患と非悪性疾患で死亡した患者を対象とし，終末期において施行した治療・ケアの内容を抽出し，上記の 2 群間で行われた内容を比較した.
【結果】
対象者は 90 例で悪性呼吸器疾患が 31 例，非悪性呼吸器疾患が 59 例であった．悪性呼吸器疾患と非悪性呼吸器疾患に分けて比較したところ，オピオイドの使用は非悪性疾患群で有意に少なく，リハビリテーションの施行は悪性疾患群で有意に少ない結果であった.
【考察】
非悪性疾患群でオピオイドの使用が低い理由として，呼吸困難に対するオピオイドの保険適応がないことやエビデンスが不十分であることが挙げられる．非悪性疾患群でリハビリテーションの施行率が高かった理由として，非悪性疾患は日常的に早期リハビリテーションが施行されていることが多く，終末期に移行しても継続されていることが多いためと考える．一方で，悪性疾患における終末期は予後の見込みや終末期の判断が難しく，早期から介入を控えることがあるためと考えられた.